



緊急 国際情勢解説**—アフター・コロナの国際地域④—****インドネシアにみるスーパーナチュラルなコロナ治療**

本名 純

(立命館大学国際関係学部・教授)

「8月になったら新型コロナの抗ウイルス製品を生産出荷します！」7月初め、インドネシアの農業大臣シャフルル・ヤシン・リンポの発表である。その製品は、農業省の研究所で生産開発している最中で、もうすぐ完成するそう。シャルル大臣といえば、前南スラウェシ州知事で、地元政界に君臨するリンポ王朝のボスである。当然、発言の影響力も大きい。その彼いわく、この抗ウイルス製品は、ユーカリの成分で作られたネックレスだという。「すでに実験済みです。これを身に着ければ、約15分でコロナウイルスの42%が死滅します。30分着用すれば80%が消滅します。もっともっと長く着ければ、もっともっと減ります。」

真面目に話している。迷いもない。気は確かなようである。おそらく多くの日本人であれば、途方に暮れるであろう。一国の大臣が、このコロナ禍の危機対応の真っ只中で、「ネックレスでコロナ治療」というネタを真剣に語っている。こんな非科学的なことを日本で大臣が言ったら総スカンになるだろう。

インドネシアは違う。そもそも文化的に、多くの地方で科学的ではないスーパーナチュラル（超自然）信仰が根強く存在する。そういう背景もあり、コロナ禍で科学に「頼らない」（頼ろうとしない）人たちが沢山いる。理由はそれぞれだ。例えば、政府がPCR検査や抗体検査の件数を増やし、感染実態の把握に努力するなか、意地でも検査を拒むウラマーがおり、近所のモスクに通う信者やイスラム寄宿学校の生徒たちにも検査を拒否するように訴えて続けている。検査拒否の理由がビックリで、検査キットが体に触れると共産主義が一緒に体内侵入するからだという。我々には、まったくもって理解不能なロジックではあるが、こういう話をそれなりに信じる土台が社会にあるのである。

また、西ジャワ州のボゴール県知事が嘆いていたが、県民のなかには病院より祈祷師（ドゥクン）を頼りにしている人も少なくなく、実際、新型コロナに感染した人が治療を求めて祈祷師を訪問している。確かに遠い病院より近くの祈祷師は頼れる存在なのであろう。私のジャカルタの知人も、交通事故で動かなくなってしまった右手の薬指をボゴールのカリス

マ祈祷師に治してもらっている。こういう話は後を絶たない。西スマトラ州では、人気の祈祷師に新型コロナウイルス感染症濃厚接触者が殺到した結果、頑張って治療に励んだ祈祷師も感染してしまうという悲しいケースも出ている。

一方、胡散臭い話も少なくない。東ジャワ州に「セレブな女性ヒーラー」として有名な、ニンシ・ティナンピという人がいる。彼女のクリニックには、いつも様々な患者が治癒を求めて訪れる。彼女のハンドパワーで病人が癒やされていく様子は、自身のYouTubeチャンネルに配信され、フォロワーは250万人を超える。そんなニンシが、なんと「コロナ治療のドリンク薬」を販売し始めた。「私の祈りが注入されたこの液体を飲めば、コロナが怖い人も感染した人も皆治ります！」値段は一本35000ルピア（約250円）。効果がなかったらどうするのか、などと考えてしまう人は、そもそも手を出さない。でも彼女のファンは買うだろう。この儲けで彼女の「コロナ御殿」が建つはずだ。

同じく胡散臭い話だが、政治家で国会副議長のダスコという人がいて、彼は不運にも新型コロナウイルスに感染してしまったが、Herbavid-19という漢方ドリンク薬を飲んだら、陽性が陰性となって完治したという。この「コロナに効く」という飲み薬を扱っているのは、国会のコロナ対策タスクフォースだ。この組織が中国からの輸入の卸元になり、各地の病院に配ろうとしている。それに対して、国内の伝統医薬品（ジャムウ）生産者協会から非難の声が挙がっている。国内産のハーブで同じものを作れるのに、なぜわざわざ中国からの輸入品を病院に卸すのかと批判する。もっともな話だ。国会のタスクフォースが、この輸入漢方薬の独占販売で儲けようという図式が見え隠れする。

このように、スーパーナチュラルな神秘主義的信仰が強いインドネシアでは、必ずしも近代科学に頼らないことからくる夢や希望も少なくなく、それは一方で、とても効果的な精神の清涼剤になったり豊かな人生観を与えてくれる。そんなインドネシアは、とても魅力的だ。しかし他方で、それを利用して、火事場泥棒的な儲けネタを発見する輩も少なくない。今のコロナ危機は、その光と影を、見事に浮き彫りにしている。

「緊急 国際情勢解説—アフター・コロナの国際地域」のバックナンバーはこちら

・アフター・コロナの国際地域③

本名純「東南アジアにみる新型コロナウイルス危機の政治インパクト」

・アフター・コロナの国際地域②

末近浩太「地域に行けないとき地域研究（者）はどうなるのか」

・アフター・コロナの国際地域①

足立研幾「瀕死のWHOがアフター・コロナに突きつけるもの」